

//REPORT//

令和3年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

9/21 開催 第3回『ユネスコスクールと「平和」-国際平和デーを記念して-』



ユネスコスクール事務局では、令和2年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を1~2か月に1回のペースで実施しています。今年度第3回目は『ユネスコスクールと「平和」-国際平和デーを記念して-』と題して、15名の参加者と対話の場をもちました。

■プログラム

開催日時:2021年9月21日(火) 16:00~17:00

時間	内容	備考
16:00	オープニング 趣旨説明	
16:05	事例紹介 広島市立幟町中学校 生徒会執行部の皆さま	
16:20	コメント 東海大学 教養学部 国際学科 教授 小貫 大輔 氏	
16:25	グループディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。	※各グループファシリテーター: ユネスコスクール事務局職員
16:45	振り返り グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。(良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等)	※各グループ3~4分程度で発表
17:00	クロージング	※写真撮影

■「広島市立幟町中学校 平和活動について」

広島市立幟町中学校の生徒会執行部の皆さまよりご発表いただきました。以下、概要です。

広島市立幟町中学校は、広島市の中心部に位置し、平和公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんが在籍していたことでも有名です。本校には、3つの平和に関する場所があります。

- 1 つ目は「折り鶴の碑」です。この碑は、平和公園にある「原爆の子の像」に年間寄せられる1000万羽、重さにして10トンの折り鶴に込められた平和への願いを広島市の子どもたちが受け取ったという証として建てられました。平和公園を管理している平和文化センターの理事長が本校の生徒に話をし、本校を訪れる方のたくさんの募金によって完成しました。この「折り鶴の碑」には、2つの意味が込められています。

- ① 1つ目は、「外からも碑を見てもらえるように」ということです。設計者は碑の後ろに大きな石を3本立てる予定でしたが、外から見えないのは募金を頂いた方に失礼だという生徒の要求から外からも見える今の形になりました。そのためプレートが外と中の2か所にあります。近年安全の面から柵がつけられましたが、外を通られる方も足を止めて、折り鶴の碑を見てください。
- ② 2つ目は、この「折り鶴の碑」は「碑の上に折り鶴を置いて初めて完成する」ということです。広島の子供たちが平和を願う気持ちを忘れて、折り鶴を置くことを忘れたなら、この碑は永遠に未完成なままなのです。碑の材質にはとても堅い黒御影石を使い、平和を願う堅い意志を表しています。

- 2つ目の平和に関するものは、「原爆の子の像」原型像です。この像は平和公園にある原爆の子の像の4分の1の大きさで、佐々木禎子さんがモデルになったと言われています。禎子さんは2歳の時に爆心地から1.7キロメートル離れたところで被爆しました。そして被爆から10年たった小学6年生の時に白血病と診断され、そこから9か月もの闘病生活を送ることになりました。その当時、折り鶴を折ると元気になると信じられていたこともあり、禎子さんは病床で願いを込めて鶴を折り続けました。しかし、その願いも叶わず1955年の10月25日に、わずか12歳の若さで亡くなりました。

この禎子さんの死を悲しんだ友人たちが原爆で亡くなった子どもたちのために原爆の子の像を作る計画を立て、募金活動を始めました。募金は全国に広まり、海外からも寄せられました。2年半の募金活動で集まったお金は今のお金で5300万円にもなり、1958年5月5日に5000人も人が集まって、除幕式が行われました。碑文には「これはぼくらの叫びです 私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」と記されています。

「原爆の子の像」には毎年、日本だけでなく世界各国からたくさんの折り鶴が寄せられています。「原爆の子の像」は子どもたちの手で作られた平和の祈念像です。

- 最後は「被爆エノキ」です。幟町中学校には2本の大きな被爆エノキがあります。広島市内を歩くと、木に白色のプレートがかけてあるものがありますが、これらはすべて被爆樹木です。

現在の幟町中学校の位置は爆心地から1.4キロメートルでした。当時はこの場所に裁判所の

官舎があり、多くの木がありました。原爆の熱線によってそのほとんどが焼け焦げて枯れてしまいました。生き残った木もこの中学校を建設するときに倒されてしまい、残っている木は2本だけとなりました。

一本のエノキには、根本から6-7メートルの太い枝に分かれるところまでずっと深い溝ができています。焼けた跡を包み込むように木が成長しているのがよく分かります。新しい枝も生まれ、夏になると青々と葉をつけて私たちに木陰を与えてくれます。

私たちの学校は、年間を通して平和活動を行っています。主な活動は、7月に行われる「原爆の子の像」碑前祭、10月に行われる「折り鶴の碑」平和集会、そして他県の中学生と意見を交流する平和交流会です。

「原爆の子の像」碑前祭は、7月に平和公園の「原爆の子の像」の前で、広島市内の小中学校が参加をして平和アピールをしたり、歌を歌ったり、群読をしたりしています。平成31年度に行われた「原爆の子の像」碑前祭には、広島市内から約40校の参加がありました。この碑前祭では、参加をする小中学生、また近くを通りかかった方に平和な世界を築くためのメッセージを書いてもらい、それをメッセージボードにしています。メッセージボードのデザインは平和実行委員会で話し合い、毎年変えています。

しかし、昨年度から新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、平和公園での「原爆の子の像」碑前祭は出来ていません。碑前祭の中止も考えましたが、世界に平和への願いを発信する機会をなくしてはならない、と幟町中学校の生徒だけの碑前祭を行っています。歌を歌ったり、群読をしたりすることは出来ていませんが、碑前祭に向けて折り鶴の作成や平和メッセージカードの記入、平和アピールは続けて行っています。

「折り鶴の碑」平和集会は、毎年10月25日の佐々木禎子さんの命日に合わせて行われます。幟町中学校では総合の時間に3年間平和学習を行っていますが、その成果をこの平和集会で発表します。

1年生は「平和を知る」をテーマに原爆資料館の見学、平和公園の碑めぐりを行い、新たに分かったことや感想を交流します。学習したことを元に1945年8月6日の誰かになりきって日記を書いたり、パワーポイントで資料を作成したりします。

2年生は「平和を考える」をテーマに戦争に関連する様々なことを発表します。「ヒロシマがどうやって復興したのか」「核兵器以外にはどのような兵器があるのか」など、グループで題材を設定して調べます。また、そこから考えたことや平和な世界に必要なことも交流します。

3年生は「平和を創る」をテーマに世界に目を向けて「平和」について広いテーマで発表します。「新型コロナウイルス」「難民」など現在問題となっていることについて調べます。調べて分かったことや感じたことを元に自分たちに何が出来るかを話し合います。

また、この日だけは校内の「折り鶴の碑」の鶴が和紙製のものに変わります。

そして平和交流会です。新型コロナウイルスが流行しだしてからは、交流できていませんが、それまでは大阪府の相生中学校、福島県の大熊中学校など、全国各地の中学生と平和について意見を交

流してきました。「自分にとって平和な世界とは何か」「世界が平和になるために私たちが出来ることは何か」などテーマを設定して話し合いをしていました。

■ 折り鶴を通じた世界平和

ASPUivNet 加盟大学でユネスコスクールを支援する立場である東海大学の小貫大輔教授より、下記のコメントをいただきました。

- ・ 素晴らしいプレゼンテーションどうもありがとうございました。私は神奈川県で教えていますが、正直びっくりし、自分は何も知らなかったんだなと思いました。
- ・ 幟町中学校の歴史を知ることができ、佐々木禎子さんという人が皆さんの中学校から世界に向けて、彼女が亡くなった後もずっと皆さんの力で想いを送ってこられたということを初めて知り、皆さんに対してありがたいと思いました。また、この想いをずっと紡いできた、悲しい想いをずっと守ってくれたということに申し訳ないと思います。本当はあなたたちだけが担うことではなく、世界中、日本の人たちがみんなが同じように忘れてはいけないことだと思います。
- ・ 禎子さんが亡くなったのは 12 歳の時とのこと、私にはちょうど 12 歳になった孫がおり、ブラジルに住んでいるのですが、コロナで会えません。皆さんもせっかくなにしてやってきたたくさんの活動がコロナで中断されてしまい、とても残念な思いをしているかと思いますが、世界中でも大変なことが起きている中、実は今、世界中で鶴を折ることが行われています。私の活動しているブラジルで応援しているコミュニティでも沢山の人がコロナに感染し亡くなっており、また多くの被害が出ていますが、その中で一生懸命働いている保健所の人たち、病院の人たちに向けて、コミュニティの人たちがみんな感謝を込めて鶴を折っています。コロナは広島で起こったことと直接つながっていないかもしれませんが、平和に向けた人々の温かい心がつながる必要があるということでは同じです。鶴を折るという行為を通じて心を届けようとしていることが、皆さんの中学校で起きたこと、皆さんの街で起きたことが出発点になって今世界にこんな形で続いています。
- ・ 本日の国際平和デーを幟町中学校の皆さんと同じような思いで体験できるということはとても大切なことだと思います。原爆のことを通じて始まった鶴を折ることが色々な意味で、世界で起きている色々な平和の問題につながっていて、世界中の人が鶴を折るということで心がつながることができるのだとしたら、その縁をつなぐ皆さんの活動を世界中の人に知ってもらいたいなと思いました。
- ・ 幟町中学校にある被爆の木はエノキということで、縁を結ぶ「縁の木」ですね。皆さんの学校が柱になって学校のエノキが縁を結んで色々な国の人たちが平和のことを思えるということは大変ありがたく、人と人がなかなか会えず、イベントや集会を開くことができませんが、このように Zoom やオンラインを通じてつながることができ、皆さんの活動をこれからはみんなで一緒に続けていくことができれば嬉しいと思います。

■ ディスカッションを通して

広島市立幟町中学校のご発表と小貫教授からのコメントを受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

-
- 幟町中学校は被爆者の方から実際話を聞く機会があり、平和について考えるうえで、自分事として捉えることができている。
 - 幟町中学校は平和以外に SDGs に取り組んでおり、持続可能な社会を作っていく上で、すべてのことを自分事として捉え、アクションを起こしている。1 つの例として、同校は男女平等のことを勉強し、校内ルールで昨年度まで男子生徒の靴下の色は白、黒、紺の 3 色が可能な一方、女子生徒は白のみだったのを、自分たちで男女平等のために動こうと校則の変更に向けて生徒会執行部が中心になり動いた。アクションを起こすところまで生徒が育っている。
 - この 1、2 年でオンライン会議が手軽にできる状況がそろっているため、世界が狭くなっている。そのため情報が伝わりやすくなっているのも、どんどん交流の機会を広げることができる、色々な人の話を聞くことができるなど、良い面がある一方、実際に紛争が起きているところでは危険な面もあるということがディスカッションを通してわかった。
 - 幟町中学校では昔起きた戦争の勉強をしているが、今実際起きているパレスチナの問題やアフガニスタンの問題について総合学習で平和学習をしており、アフガニスタンやタリバンのことを勉強しているとのこと。昔のことを知るだけではなく、今の社会の平和のことを考えることにつながっている。
 - 学年に応じた段階的な指導があるというのは素晴らしい、大事なことだ。
 - 平和学習は今の社会に必要なことではあるが、この学習を今後どのようにつなげていくか、今後の社会にどのようにつなげていくのかというテーマで話し合った。外部との交流を大事に考えていくことが必要だが、当事者目線すぎるという課題が現実としてある。ESD や SDGs の学習をするときに自分の問題として捉えて当事者として行動を起こすことがクローズアップされていると思うが、当事者目線と、当事者ではない目線、要は客観的に見て、外から見て、という両方を学習していくことによって改めてまた当事者として戻ってくる、という新しい視点をいただいた。
 - 東京の方での平和学習がどうしても修学旅行等行事に偏った、イベント化した、一時的なブームとして行われるという現実をどのように身の回りの問題として捉えていくかという問題がある。
 - 広島の実際の声、実際の気持ちというのはどういうものなのかということに対し、たくさんの本音では語れない部分、表には出せない部分、被爆者同士でもわだかまりが実際にあったということもあり、簡単に教えられる部分ではないということを教えられた。
 - 国際平和デーでイベントをやっていく、ユネスコスクールの活動を国際平和デーとつなげていくことの大切さを感じた。
 - 広島では当たり前の、原爆の事実を学ぶというこの学校でも大切にしていることを、広島から出た他の日本の地域ではそういうことをやっていないのか？ と驚いた。

- 人の死という重たいテーマについて直面するような教育の内容を日本全国どこの学校(小学校や中学校)でもやっているとはとても言えないと思う。しかし広島ではそういう重たいテーマだからこそ、広島が復興したという力強いメッセージと捉えなおし、それを ESD として勉強している。
- 今年の平和デーはコロナからの復興ということがテーマになっているが、広島は復興というメッセージを持っているので、世界から届いた鶴を広島の力で世界に飛ばすようなことができるのではないかと思った。もし幟町中学校の皆さんに鶴を折った写真や動画を提供していただけたらそれを世界各地の学校、ユネスコスクールにつなげていくことができるのではないかと思う。

※次回は、2021年10月19日(火)16:00~17:00「気候変動問題をはじめとした地球環境問題に関する教育を進めるために」というテーマで開催します。お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#) にも掲載しております。ぜひご参加ください！